

# アミーゴ会だより

2024年4月  
通巻第58号  
季刊 2024-II

[www.mex-jpn-amigo.org](http://www.mex-jpn-amigo.org)



発行人：河嶋正之  
編集人：河嶋正之  
事務局：吉野 隆

メキシコへの誘い：歩行記 10

## ぶらりメキシコ人旅 —ヒロテペックと十字架の話— (Jilotepec)

メキシコ・日本アミーゴ会 会員  
写真家・ルポライター 阿部修二

### はじめに

前回紹介したテポツォトランからひと山越えすると、広大な耕作地に恵まれた同じメキシコ州のヒロテペックの町になる。かつてはアステカ帝国北辺の支配地で、この辺りの主都であったようだ。

さて、メキシコを旅しているのにその土地の美味しい物を紹介できないのは残念なのだが、それは私が小さい頃からお腹が弱く、美味しい物を目にしても潔く挑戦できないからだ。だから旅の常備薬は正露丸。それでも、メルカド（市場）やティアングス（露店市場）でよく目にする鳥や豚、牛肉やその臓物を使ったカルド（煮込み）に挑戦することがある。ご存じのタコスの皮、トルティーヤを丸め、ディップして食するのだが、なぜだか私の胃袋はトルティーヤと相性がいい。余談になるがトルティーヤは茹でトウモロコシ粒を石臼でつぶした物に、石灰石の粉末を混ぜて作る。それはつなぎの役目とカルシウム不足を補うためのようだ。市場では食材売り場で堂々と石灰石が売られているのだ。

この町を二度目に訪ねた日はバス駅近くの広場でティアングスが繰り広げられていた。長い植民地支配があり、メキシコ人の生活が西洋化されたのだが、先住民の食生活や労働事情をヒロテペックの町は今も我々に見せている



農家はこの日、作物を現金化する

冷蔵庫いらず、ティアングスでは  
生きたままを売る

チリも積もれば山となる

トルティーヤのための石灰石

モツ煮込み料理：赤唐辛子  
がら本も浮かぶ

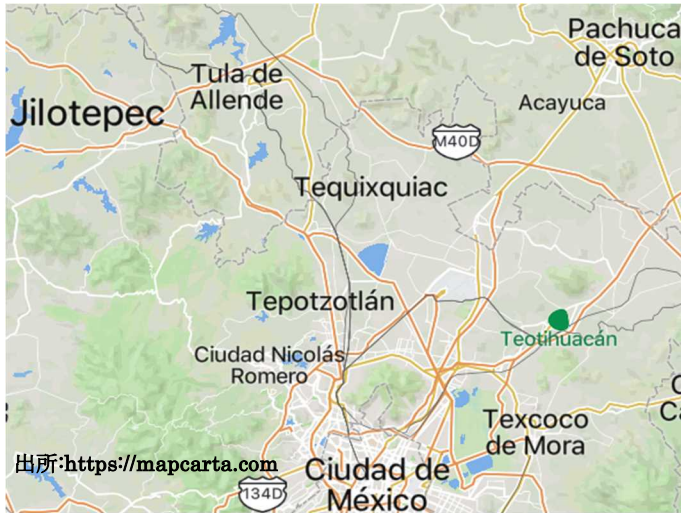
豚皮からラードと  
チチャロン(皮煎餅)を作る

### ＝ 目 次 ＝

- |  |          |      |
|--|----------|------|
| 1.メキシコへの誘い：「ぶらりメキシコ人旅 10 -ヒロテペック」                              | 会員 阿部修二  | ...1 |
| 2.アミーゴ会活動報告：「2024 年度メール総会の概要報告」                                | アミーゴ会幹事会 | ...5 |
| 3.メキシコ短信：「6月2日女性大統領誕生!!：世論調査動向;メキシコ市長選動向;AMLO 大統領 58%支持」       |          | ...6 |
| 4.私の本棚：「メソアメリカ文明ガイドブック」「古代アメリカ文明」「メキシコ時代の痕跡と歴史認識」...4 あとがき...6 |          |      |

私が初めてこの町を訪ねたのは1989年のことで、この町を訪れるきっかけとなったのは、マヌエル・ツーサン著『パセオ・コロニアル(植民地時代散歩)』の中のモノクロームの写真に触発されたからだった。そこには「テキキ様式」と呼ばれる先住民の絵文字が彫り込まれた十字架が写っていて、是非それを自分の目で確かめたいと思ってのことだった。

\*編集部注：テキキ Tequitqui 様式とは16世紀に顕現したキリスト教とインディヘナ信仰との混合文化表現。テキキはナワトル語で収税吏=ただ働き?を意味するか。



二度目にこの町を訪ねたのは、それから15年も経ってからのことで、それはこの町が植民地時代の「銀街道」に重要な役割を果たしていたことを知ったからだった。

### 歴史学者パコ

ソカロ(中央広場)に面した役場の教育文化担当の女性を訪ねて、町の歴史資料と地図はありませんかと尋ねてみた。期待はしていなかったが、代わりに紹介していただいたのはこの町に住む歴史学者フランシスコ・ゴンサレス・コン教授だった。私はその教授の元を訪ね、自己紹介のために拙書『メキシコ歴史紀行・征服の十字架』(明石書店)を差し出したのだが、その中にヒロテペックの「テキキ様式」の十字架が載っていることを知って彼が驚き、私に関心を示してくれたことは幸いだった。彼は地元でパコという愛称で呼ばれているスペイン人教授で、当時メキシコに移り住んで15年が経ち、この町には10年程前から住んでいるという。

私はコン教授に、メキシコ征服後、この地のエンコメンデーロ(収税領主)となったファン・ハラミージョについて質問した。さらにはコルテスのアステカ帝国征服に通訳として関与した先住民女性マリンチェが、ハラミージョと結婚をしてこの地に住んでいたことや、ハラミージョとの間に娘が一人いたこと、さらに、コルテスがマリンチェに大きな屋敷をハラミージョの新しい領地にプレゼントしたことを聞くことができた。

二時間あまりの対談で、彼は私をメキシコの歴史を愛する同胞として扱ってくれていた。コン教授の貴重な時間をいただいたことに感謝して退出しようと思ったら、一緒に食事をしないかという。私もその提案に

賛成し、私たちは町の中心に出かけることにした。食後に町を案内してくれるという。

町の担当者に教授との面談が終わったことを報告して謝意を述べようと役場に戻ったら、ことは重大になっていた。教授が町の職員にこの日本人がヒロテペックを日本に紹介しているとでも言ったのか、私の観光案内に運転手付きの車を手配しようとしていたからだ。

### マリンチェとファン・ハラミージョ

コルテスの先住民女性通訳マリンチェと結婚したファン・ハラミージョはコルテスと共にアステカ征服戦争を戦った一兵士で、その成功報酬としてヒロテペックの収税領主として税金を受け取る権利を授かった。

このハラミージョとマリンチェとの結婚には次のような逸話が残されている。それはコルテスが植民地メキシコの総督に任命された直後のことで、大編成の軍を仕立てて、陸路でホンジュラス(中米)に遠征する途中でのことだ。彼はマリンチェとの間に息子マルティンをもうけていたが、その息子を引取るとマリンチェをハラミージョに嫁がせている。ふたりの結婚は今日のオリサバ(ベラクルス州中部)近郊の小さな村でのことだったという。

コルテスがマリンチェを部下に添わせたのには訳があった。征服後、コルテスを頼ってキューバ島からメキシコ市に到着したばかりの不仲の妻、カタリーナが急死したために、コルテスはスペイン王室側近ベーハル公爵の姪、ファナ・デ・スニガとの再婚を考えていて、身辺整理が必要だったからである。コルテスにとっては王室の重要ポストを手にする絶好機であったし、いっぽうでベーハル公爵にとってもメキシコ征服で広大な領地と莫大な財産を手にしたコルテスと姻戚関係を築くのには好都合だった。だが、コルテスのこの再婚問題は妻カタリーナの不審死に彼が関与していたとの風評を煽っていた。

スペイン人ハラミージョに嫁いだ先住民女性マリンチェは、彼の収税領地で征服から6年後の1527年に夭折したとされている。1519年にタバスコ族から奴隷としてコルテスに贈られた時には10代だったというから、20代ははじめに死んだということであろうか。彼女はハラミージョとの間に娘を一人もうけていて、その名をマリアと名付けた。が、その生い立ちから悲しい運命の糸に操られて生きてきたマリンチェには、この世で安住の地が与えられることはなく、娘マリアを慈しむ時間も持たないまま、悲運を生きようとした。

マリンチェを亡くしたハラミージョはベアトリス・デ・アンドラダというスペイン人女性と再婚している。ところが、今度はハラミージョが死去すると、彼の財産をベアトリスとマリンチェの娘マリアとが相続することになったが、その相続に関して30年もの長い裁判が行われたという。植民地時代、先住民の血をひく者にスペイン国の土地譲渡が許されないというきわめて不条理な法律のせいだった。

この顛末は拙書『メキシコ歴史紀行・征服の十字架』を参考にされたい。

## 石の十字架の秘密

このヒロテペックの町はずれに「クルス・デ・ドエンド」という場所がある。そこには石の十字架が一本建てられていて、植民地時代の記念碑のようになっている。語末にアクセントを置いてドエンド (Duendó) と発音するのだが、オトミ語で石を表す言葉だという。この場所は北のケレタロ州サン・フアン・デル・リオ市やケレタロ市に向かう古い道筋にあり、その先には畑を北西に突き進むコスモス街道が続いている。

この百合の花が両腕にあしらわれた十字架はメキシコの中でもっとも古い時代のもので、それには多くの伝説が秘められているという。



ドエンドの十字架から北向するコスモス街道

その一つは、フランシスコ会の修道士たちによって語り継がれてきたもので、この土地の収税領主が先のベアトリス・デ・アンドラダであった時のことだ。

ベアトリスはその当時、コルテスが前述のマリンチェに恩賞として与えたサン・フアン・デル・リオ市(ケレタロ州)郊外にあるマリンチェの館、後のジャベ家のアシエンダ(大荘園)の館に住んでいたと思われるが、そこから彼女の収税領地であるヒロテペックを訪れた時のことだった。彼女が町の中心の修道院・教会に向かう道すがら、一本の単純な十字架を見かけたことに端を発している。その十字架は近くに住むオトミ族の先住民によって、辺りがきれいに掃き清められて可憐な花が供えられていた。ベアトリスがこうした先住民の信仰心に大いに感心して、その十字架に立派な台座を造りましょうと修道士に持ちかけ、石工を呼んで作業を始めようとした。ところが、何故か先住民は邪魔立てして、工事をさせないように抵抗したというのだ。結局、先住民はその工事を阻止することができなかった。石工が十字架の足下を掘り進むと、土の中から先住民たちが信仰していた偶像やその破片、生け贄の痕跡などが続々出土したのだという。

今日では、三段の土台の上にその十字架が北西を向いて建てられている。1931年にふたたびその十字架の下を掘った者がいて、その時そこから人骨が出て来たという。前述の教授パコが言うにはそれはマリンチェの遺骨だったとが、遺骨は今どこにあるかはわからないともいう。さらに教授パコはその時の掘削で十字架が傾いたと教えてく



町はずれにあるドエンドの十字架

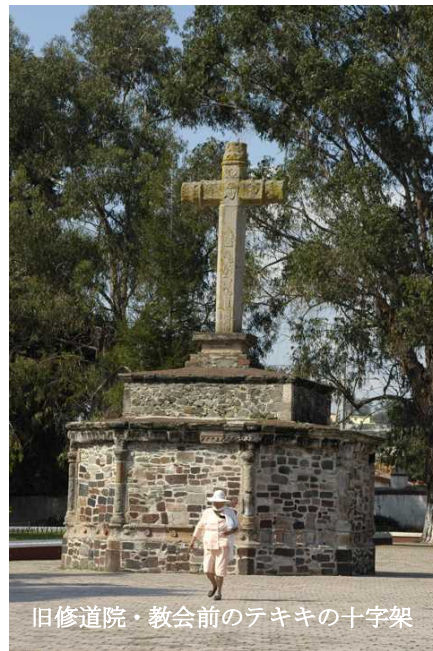
れた。

1939年出版の前述の『パセオ・コロニアル』の写真には、すでに傾いた十字架の写真が掲載されているから、長い間傾いたままになっていたことになる。だが、傾いたこの十字架が、かえってミステリアスで、たくさんの伝説を生み出すことになっているのではないかとも思う。この十字架はフランシスコ会の修道士が初めてこの地を訪れた時にでも建てられたものであろうか。以上の話からその地点はもともとオトミ族にとって重要なピラミッド神殿のあったところだったと思う。ベアトリスが見た先の十字架に手を合わせる先住民の行いは虚偽で、そこに埋蔵されていた先祖代々のお宝、彼らの神々の偶像に手を合わせていただけだったのだ。

## テキキの十字架の見本

もうひとつ、魅力的な十字架が町の中心にある。それは旧サン・フランシスコ修道院・教会(旧教会はバロックの建物だったが、19世紀に崩落している)のアトリオ(前庭)の中に鎮座している。テキキの十字架と呼ばれるそれには先住民の絵文字が刻まれている。

十字架は普通、イエスの受難を表現しているが、それを絵文字で先住民に理解してもら



旧修道院・教会前のテキキの十字架



コルテスの顔?のレリーフがある十字架

うために考え出されたものだ。注目して欲しいのは十字架に刻まれたレリーフとそれを支えているピラミッドを模したような台座である。先の話から察して先住民の崇拝した神々の遺物がそこに隠されていると私は確信している。アトリオの広さから、ここにあったピラミッド神殿はかなりの規模のものだったに違いない。

スペイン人征服者たちは、先住民の宗教を野蛮な宗教だと決めつけ、彼らに神殿とピラミッドを破壊するように求め、その代わりに十字架を崇めるようにとそこに十字架を突き刺したのだ。テキキの十字架は修道院の中庭にもある。このような歴史的な遺物、そして人々の生活からヒ

ロテペックは植民地時代の歴史の証人のような町だと改めて感じたのだった。

残念ながら紙面の都合上、テキキの十字架を深く説明することができなかった。拙書『メキシコ歴史紀行・征服の十字架』（明石書店）を参考にされたい。



修道院中庭にもテキキの十字架  
背後に矢、槍、梯子、金槌、短刀のレリーフ

**[写真複製不可] [連載その10完]**

阿部修二会員に「ぶらりメキシコ一人旅」と題して、メキシコのあちこちを訪ね歩いたエッセイを連載していただいています。

- 第1回(2022年1月号)：トラスカーラ
- 第2回(同4月号)：ケレタロ
- 第3回(同7月号)：ハルパン&コンカ
- 第4回(同10月号)：ラング、ティラコ&タンコヨル
- 第5回(2023年1月号)：シリトラのエドワード・ジェイムスの庭
- 第6回(同4月号)：イダルゴ州の奥座敷「良く肥えた土地」アクトパン
- 第7回(同7月号)：イダルゴ州の奥座敷2：サン・アンドレス・ティアングステンゴ
- 第8回(同10月号)：イダルゴ州のもう一つの奥座敷3：イスミキルバン
- 第9回(2024年1月号)：テボツォトラン
- 第10回(同4月号)：ヒロテベック

阿部さんは2005年よりアミーゴ会会員。1947年岩手県花巻市生まれ。岩手大学工学部卒及び桑沢デザイン研究所ビジュアル・デザイン科卒。日本写真家協会元会員。メキシコ教会美術に惹かれ1986年より毎年渡墨。2005年以降4冊のメキシコ関係書籍を発行。最新作は『先住民のメキシコ―征服された人々の歴史を訪ねて』（2021年9月刊 明石書店）です。

**[写真転載不可]**

<編集部>

**私の本棚**

**『メソアメリカ文明ガイドブック』**

市川 彰 著

新泉社 2023年7月刊 1,800円+税



南北アメリカ大陸の中間を意味するメソアメリカでは、紀元前1800年頃から16世紀頃まで、マヤやアステカなどの文明が興った。

多彩な農耕、精緻な文字や暦、神殿ピラミッド、石彫芸術、そして都市や王朝を創り、盛んに交流した世界を「豊かな多様性」をキーワードにひもとく(出版社HP)。

著者はアミーゴ会主催メキシコ歴史・文化講演会第3回講演会(5月7日)の講師。青年海外協力隊としてのエルサルバドル派遣を契機に、チャルチュアパ遺跡、ヌエバ・エスペランサ遺跡、サン・アンドレス遺跡で発掘調査。2022年からメキシコのオアハカ州リオ・ビエホ遺跡の発掘調査に国際共同チームの一員として従事している。

2023年2月より金沢大学古代文明・文化資源学研究所准教授。専攻はメソアメリカ考古学。

本書はA5・96頁とコンパクトだが、メソアメリカで継起する諸文明を理解するに最適の解説書である。

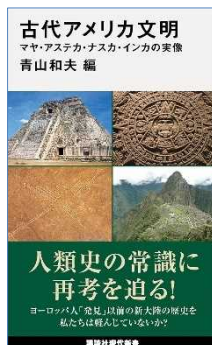
\*\*\*\*\*

**私の本棚**

**『古代アメリカ文明』**

～マヤ・アステカ・ナスカ・インカの実像～  
青山和夫 編

講談社現代新書 2023年12月刊 1,200円+税



マヤのピラミッド、ナスカの地上絵、マチュピチュの祭祀、アステカの湖上都市テノチティトラン……。ヨーロッパ人「発見」以前の新大陸の歴史を私たちは軽んじていないか？人類史の常識に再考を迫る最新知見がおもしろい！多くの人が生贄になった!?大河の流域でないと文明は生まれない!? 無文字社会にリテラシーは関係ない!?王は絶対的な支配者だった!?―「常識」の嘘を明らかにし、文明が生まれる条件を考える(出版社HP)。

メキシコ歴史・文化講演会第1回講師を務めた井上幸孝・専修大学国際コミュニケーション学部教授は、第2章「アステカ王国～テノチティトランのモニュメント・絵文書を読む」を執筆。その1「アステカ王国の実像」では王国の成立発展史、客観的な王国像の追及、王家の偉容を見せるテノチティトランを記述。その2「絵文書からアルファベット文書へ」では権威装置としての文書、絵文書から文字文書への変容を解説。その3「後世に伝えられたアステカ王国」ではスペイン支配下の先住民言説を紹介し、アステカ史とメキシコ国家の関係を論じて、新しいアステカ王国像を提示する。

編著者の青山和夫・茨城大学人文社会科学部教授は「序章」で、近年のマヤ・アステカ文明およびアンデス文明の日本人研究者主体の飛躍的な研究成果を踏まえて、日本特有の“世界四大大河文明史観”からの脱構築の必然性を説く。読者の歴史観を一変する必読書だ。

**私の本棚 『メキシコ時代の痕跡と歴史認識』**

大垣 貴志郎 著

行路社 2023年11月刊 1,980円

植民地の歴史に埋もれた紀元前からのメキシコの人々の深奥の空間での、スペインによる征服と植民地時代の“遺産”、米仏の侵略の痕跡を辿り、広範な文献調査に基づくメキシコの真実の歴史を記述。著者は京都外国語大学名誉教授。メキシコの歴史に関する多数の著作がある。



## 2024年度メール総会の概要報告

2024年度のメキシコ・日本アミーゴ会総会は感染症動向等に鑑みて対面総会を避け、2月14日付けメルマガで議決権行使日を3月22日とし名簿記載106名に諮り、全議案が承認されました。この旨を幹事会は3月22日付けで会員にお知らせしました。以下に概要を再掲し会員の皆さまのご確認に供します。 幹事会

\*\*\*\*\*

会員の皆様

2024年3月25日

メキシコ・日本アミーゴ会 会長 河嶋正之

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度も昨年度に続きコロナ感染への用心対策のため書面による総会となりました。

本年の定期総会は3月22日に実施した議決権行使書(メールおよび書面)による賛否投票の結果、下記の通り全議案が承認されたので茲許ご報告申し上げます。 敬具

記

第1号議案 : 2023年度事業報告

原案通り可決承認されました。

第2号議案 : 2023年度決算案

原案通り可決承認されました。

第3号議案 : 2024年度事業計画

原案通り可決承認されました。

第4号議案 : 2024年度予算案

原案通り可決承認されました。

\*\*\*\*\*

### 第1号議案 : 2023年度事業報告

2023年度末会員数は106名(日本在住有料会員のみ)。総会は感染症流行を前に、アミーゴ会初めての「メール総会」を行い、9月13日に4議案が承認され、9月14日付けメルマガで会員宛て配信。会報「10月号」で概要を誌上報告済。

会報「アミーゴ会だより」は1月、4月、7月、10月と年4回発行を継続し、会員からの投稿記事を掲載。メキシコ歴史・文化講演会はコロナ感染回避のため実施せず。

第22回フィエスタ・メヒカーナ in お台場 Tokyo 2023は9月16日~18日に開催され、アミーゴ会は協賛金10万円を計上して後援。開会式では河嶋会長が挨拶。プーリヤ大使も開会式後のGRITOを主導。詳細は会報「10月号」で報告済。

懇親ゴルフ会は7月11日、参加者数23名にて湘南カントリー倶楽部で開催を会報報告済。

アミーゴ会HPの改修も完了。これからも会員の意見を反映しより魅力的なHPにするべく努力。

### 第2号議案:2023年度決算

別項参照

### 第3号議案:2024年度事業計画

2024年度第一回会幹事会を1月25日対面実施。2024年度の総会・懇親会の対面実施について議論するも、感染症動向から時期尚早として書面総会を3月末を目途に行うことを決定。懇親会の実施は継続協議。

メキシコ歴史・文化講演会はメキシコ大使館文化部門と協議し、メキシコ3大文明(マヤ・アステカ・ティオティワカン)の最新研究成果を専門家に報告いただくべく企画し実施。出席者は会員に限定せず。

第23回フィエスタ・メヒカーナ IN お台場 Tokyo 2024(9月連休開催)にアミーゴ会は例年同様10万円を協賛金として支出し後援を予定。

懇親ゴルフ会は7月か8月に実施を予定。

### 第4号議案:2024年度予算案

別項参照

(注)御宿アミーゴ会の団体会費を2人分に切替計上。

### 2023年度決算(2023/1/1~12/31)

収入の部		備考
会費	506,000	150名(含前年度未納分+団体会費(御宿2万円))
<b>収入合計</b>	<b>506,016</b>	受取利息16円
支出の部		備考
HP維持管理費	43,910	
FM2023協賛金	110,330	+消費税・送金料
懇親ゴルフ会	50,220	+送金手数料
事務局費・編集部費	100,550	各5万円+送金料
事務局諸費	65,123	通信費+消耗品等
<b>支出合計</b>	<b>370,133</b>	
<b>当期収支</b>	<b>135,883</b>	
<b>2023年期末残高</b>	<b>2,976,483</b>	みずほ銀行+手元金

### 2024年度予算(2024/1/1~12/31)

収入の部		備考
会費収入	300,000	@3,000円 x 100名
事業収入	0	総会・懇親会
<b>収入合計</b>	<b>300,000</b>	
支出の部		備考
事業費		
総会・懇親会費	0	*@3,000円 x 30人
講演会事業費	180,000	謝金4万円 x 3回+交通費6万円
懇親ゴルフ会	50,000	
特別行事費	50,000	
FM2024協賛金	110,000	消費税込
<b>事業費合計</b>	<b>390,000</b>	
管理費		
HP維持管理費	50,000	
西日本幹事交通費	38,000	交通費2.8万円+宿泊費1万円
西日本懇親会支援金	10,000	
事務局費・編集部費	100,000	各5万円
通信費	30,000	
事務局諸費	50,000	消耗品費・予備費
<b>管理費合計</b>	<b>278,000</b>	
<b>支出合計</b>	<b>668,000</b>	
<b>当期収支</b>	<b>-368,000</b>	
<b>2024年期末残高</b>	<b>2,608,483</b>	*次期繰越金

以上

\*\*\*\*\*

☆会員の皆様:連絡先変更の際は事務局へご一報下さい☆

## メキシコ初の女性大統領：6月2日に誕生!!

6月2日(日)の投開票でメキシコ初の女性大統領が誕生する。本誌第56号(2023年10月)で既報のように、与党MORENA(国家再生運動)は統一候補として前メキシコ市長のクラウディア・シェインバウム女史を、野党連合FAM(メキシコ拡大戦線)は前上院議員のソチル・ガルベス女史を統一候補として押し立てて与野党ガチンコの選挙運動を展開している。このほかにMC(市民運動)から前下院議員のホルヘ・アルバレス氏が立候補している。選挙期間は3月1日から5月29日まで。新大統領は10月1日に就任する。任期は6年。

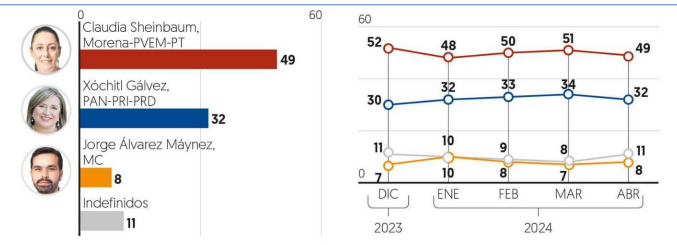
シェインバウム陣営はMORENAと労働党(PT)と緑の党(PEVEM)の左派・中道左派の三党連合「歴史を作り続けよう (la coalición 'Seguiremos Haciendo Historia')」を結成し、他方ガルベス陣営はメキシコの三大伝統政党PAN-PRI-PRDと10州の地方政党からなる同盟「メキシコの手と心 (la alianza 'Fuerza y Corazón por México')」を編成して国を二分する選挙戦を繰り広げている。



まとめ：編集人

### 与党候補が17%勢リード

メキシコ金融経済紙El Financieroが4月26日に伝えた最新世論調査によると、シェインバウム候補の支持率は49%と、ガルベス候補の支持率32%を17%勢上回っている。他方、アルバレス候補の支持率は8%と低迷している(下図参照)。



出所：El Financiero電子版2024年4月26日付( [Llegan a segundo debate sin cambios: Sheinbaum, 49%; Xóchitl, con 32% - El Financiero](#) )

上表は4月28日(日)開催の第2回テレビ討論会直前の最新支持率調査(4月17日～24日。被調査者1,360人)であるが、これまでの調査結果と大きな変化はない。すでに調査対象者の59%が意中の候補者を決めており、また第2回TV討論会視聴意向表明者の61%が投票する候補者を決めている。

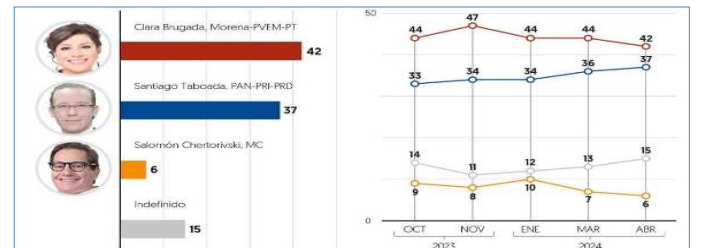
シェインバウム候補の支持率は女性が54%(ガルベス候補は27%。以下同じ)、男性が44%(38%)、世代別では50歳以上が57%(33%)、18～29歳が49%(21%)、30～49歳が47%(33%)、初中教育のみの人々が56%(25%)、大卒者が41%(40%)、政府の社会給付受給者限りでは65%(33%)、非受給者では34%(44%)と“社会的弱者”の支持率が高い傾向にある。

第1回TV討論会は4月7日(日)に行われたが運営者の不手際も重なり、各候補共にイメージ評価を落とした。視聴者の討論会評価はシェインバウム候補の勝利が44%、ガルベス候補が18%、アルバレス候補が6%だ。他方、イメージ調査はシェインバウム候補の良いが3月の55%から49%に、悪いが30%から32%に、ガルベス候補の良いが39%から29%に、悪いが43%から50%に、アルバレス候補の良いが17%から13%に、悪いが43%から40%に悪化している。

なお、第2回討論会後の評価はシェインバウム候補が54.4%と最も高く、ガルベス候補が36.8%、アルバレス候補が7.5%だと、メキシコ一般紙El Universal電子版2024年4月29日付けは伝えている。

### メキシコ市長：与野党5%勢差に接近

メキシコ市CDMX市長選は、与党連合のクララ・ブルガダ候補(Clara Brugada)が42%、野党三派のサンチャゴ・タバオダ候補(Santiago Taboada)が37%、市民運動のサロモン・チェルトリビスキ候補(Salomón Chertorivski)が6%の支持を得て覇を競っており(下図参照)、2代続いてのMORENA系女性市長誕生が注目される。



出所：El Financiero電子版2024年4月19日付( [Se cierra la CDMX rumbo a segundo debate: Brugada registra 42% de intención de voto; Taboada, 37% - El Financiero](#) )

### AMLO大統領支持率58%と高位安定

6月2日投開票の大統領・上下両院議員の国政選挙、9州知事・31州議員・メキシコ市長・同市16区長などの地方選挙では、ロペス＝オブラドールAMLO大統領率いるMORENA系候補の優勢が伝えられる。AMLO大統領の支持率は発足以来高水準を維持しており“AMLO効果”も喧伝される。El Financiero紙の3月調査でも支持率は58%と高い。しかし、不支持率も41%ある。

政権の政策課題別評価は「社会給付」が68%と最も高く、否の意見は26%だ。他方、最も低い評価項目は「社会の安全」で68%が悪いと評価し、良いとの評価は20%に過ぎない。メキシコが直面する国家課題は「安全」が46%で第1位、「経済・失業」が24%で第2位。「貧困」や「腐敗」は各々6%。他方、「経済政策」の評価は良いが28%、悪いが42%。「汚職撲滅」は良いが41%、悪いが43%と拮抗している。(了)

\*\*\*\*\*

あとがき：新緑が眩しすぎる五月の青空。地球では戦禍が生命を奪い涙が涸れることはありません。ナントカシテクレ!! 遂にマツチョ伝説の国で女性大統領が誕生。女性の社会的進出が低賃金家内労働女性の存在で進む国での象徴的出来事。遂に編集子もコロナ罹患一今も後遺症(倦怠感)に悩む日々。本誌発行大幅遅延の理由と責任転嫁の常套手段。皆様にお詫びあるのみ。会員読者のご寄稿を鶴首。 [20240430 か]